

ここが問題！リニア新幹線

2019.4.13 NO.67 リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会 web-asao.jp/hp/linear

リニア大深度地下非常口で地下水上昇し工事中断 甘すぎるJR東海の予測が新たな事故を呼んでいる

JR東海によるリニア新幹線建設は、品川ー名古屋間の各地でスーパーゼネコンを中心とする企業体の工事が始まっています。国交大臣の大深度工事認可を受け、東京や町田・川崎、名古屋、春日井の各地で巨大な非常口の建設工事が進んでいます。

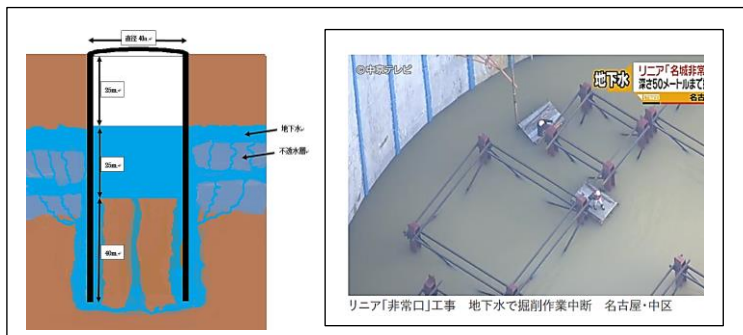
大深度トンネルを掘るための非常口工事は、首都圏では品川区の北品川、大田区の東雪谷、川崎の中原区等々力、宮前区梶ヶ谷、麻生区東百合ヶ丘、東京町田市の小野路で行われています。非常口の直径は40～50m、深さは80～100mの巨大な穴が開けられようとしています。

北品川では既に立坑が完成間近で報道陣にも公開されています。川崎でも梶ヶ谷と東百合ヶ丘の非常口工事が進み、近隣からもクレーンなど巨大な建設機械が見ることができ、工事の騒音や振動も起きています。両非常口の工事残土はダンプカーや武蔵野南線の貨物コンテナに積み、県内の造成地や船で千葉県に海上輸送されています。

非常口が完成すれば次は大深度トンネルの掘削が行われ、大量の土砂が排出されます。このトンネル工事は毎日24時間行われ、川崎市内で140万台のダンプカーが走行し、その排出ガスによる市民の健康影響や騒音・振動被害、交通事故が心配されます。既に市内の工事は1年も遅れており、もしJR東海が工事の安全な管理を疎かにしたり、予測できたはずの環境影響が起きれば工期は更に延長され、2027年のリニア開業は不可能になります。

国民だけでなく将来のJR東海の経営に最悪の結果をもたらすリニア新幹線の工事を直ちに再検証し、現段階で工事を中止することこそ企業としての賢明な判断です。

名古屋市のリニア名城非常口工事で浸水事故、復旧できず工事が半年以上中止に



名古屋市の県庁近くで行われている名城非常口工事で、今年2月に大量の地下水が非常口の半分の高さまで湧き出し、工事は中断されています。排水しても立穴の底から水が出るおそれがあり手が付けられない状態となっています。(左図は名城非常口浸水事故)

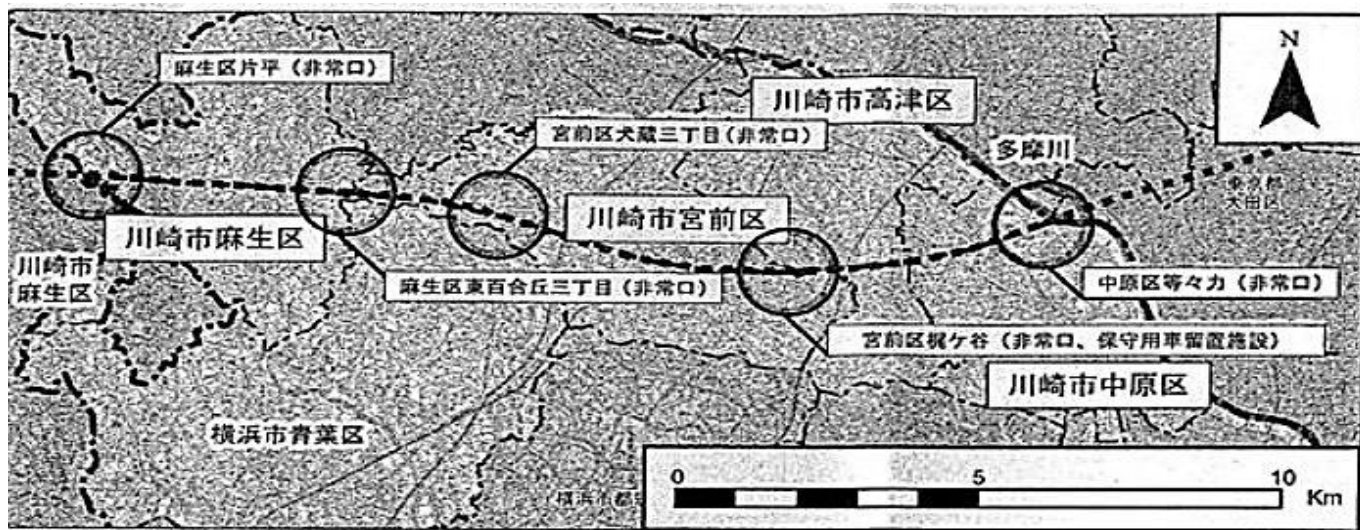
地下水の水脈は地表から25mほど下にあり

ますが、工事で水脈を分断し、立坑の脇を下部に水が流れ底部から浸水したものと見られます。

川崎でも、多摩川河畔にある中原区等々力非常口工事が進めば同じ事故が起きることが予想されます。名城非常口の浸水でJR東海は「事故ではない」と言い張っていますが、予期せぬ事態が起きれば事故です。また、浸水事故についてすぐに名古屋市や住民に知らせなかったJR東海の事故隠しも問題です。次ページに川崎市内の非常口工事の規模や県境について報告します。工事の影響を考えずに、知らされないで済ませていると、JR東海は強引に工事を進めてしまいます。反対の声を強めましょう。

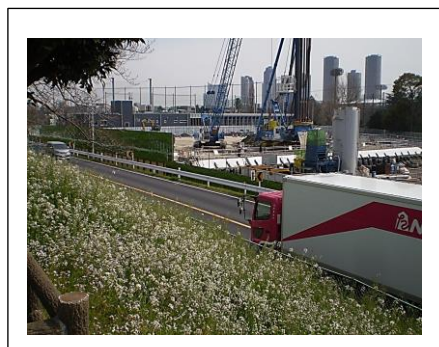
川崎市内リニア工事の現況と問題点

1. 市内ルートと非常口



2. 非常口工事の現況 (2019年3月撮影)

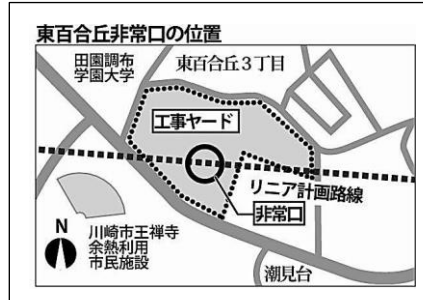
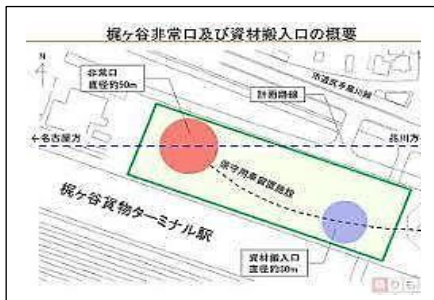
<等々力非常口>



<梶ヶ谷非常口>



<東百合ヶ丘非常口>



施行: 清水建設 JV
立坑: 非常口
 直径30m深さ100m
残土: 14万^m³
 トンネルが等々力緑地の「釣り池」の下を通過します。池の水が無くならないか心配

施行: 西松建設・五洋建設 JV
立坑: 非常口
 円径50m、深さ80m
 資材搬入口
 円形30m、深さ75m
残土: 250万^m³ (150万^m³)
 川崎港埋立に140万^m³

施行: 大林組 JV
立坑: 非常口
 円径39m、
 深さ100m
残土: 100万^m³ (75万^m³)
 平塚市内、伊勢原市内
 の土地造成に使用

3. 残土処理の問題

梶ヶ谷非常口排出の残土 140 万 m^3 を川崎港東扇島埋立事業に利用。現在は立坑掘削残土を武蔵野南線(貨物線)梶ヶ谷ターミナル駅から湾岸部の三井埠頭まで貨車輸送。全量を運ぶまでに至らず、半分は工事車両で陸上輸送。三井埠頭から千葉県市原市まで海上輸送し、市原市の山砂利採取跡地に埋め立てています。しかし、梶ヶ谷の立坑工事自体はすでに1年遅れています。



梶ヶ谷非常口残土処分地



輸出用自動車待機場として利用

横浜市も同時期に港湾計画変更し新本牧ふ頭建設にリニア残土を活用

平成 26 年 11 月に、川崎市と横浜市は港湾計画を変更、昨年JR東海とリニア残土の活用で協定締結、川崎市はリニア残土の 140 万立方メートルを上記の東扇島の海面埋め立てに活用。横浜市は新本牧ふ頭の埋め立て造成にリニア残土600万 m^3 を利用するとしています。

リニア残土利用計画

事業主体	JR東海埋立負担	自治体負担	埋立面積	造成後利用目的
川崎市	200億円	40億円	12 ヘクタール	輸出自動車待機場
横浜市	600億円	200億円	40 ヘクタール	冷凍低温設備建設

<展望の見通し無い改訂港湾計画>

川崎市の埋立て事業は右肩上がりで増える完成自動車輸出のためとしています。右肩上がりどころか増える見通しはありません。同事業に市も40億円を支出するが、リニア残土のために市が負担することはムダです。今手を付ける事業ではないのです。横浜市の事業は国も100億円を支出することになっています。リニア残土処理に国絡みで税金を主出することになります。この事業については明確な環境影響評価が必要であると言えます。

第8回「原発ゼロへのカウントダウン in かわさき」に1300人が参加



中原平和公園野外ステージ

福島第一原発事故から8年目の時期に当たる3月10日午前10時30分から川崎市中原区の平和公園で、第8回「原発ゼロへのカウントダウン in かわさき」が行われ、好天も手伝い1,300人の市民が詰めかけました。

この日は、ゲストスピーカーとして、福島原発神奈川訴訟原告団長の村田弘さん、元東海村村長の村上達也さん、川崎地域エネルギー市民協議会の鳥海幸恵さんが招かれ、午後1時からの野外ステージの集会で、それぞれの立場から脱原発社会の実現を訴えました。



会場内には市内の30の市民団体のパネル展示や物品販売などのテントが設けられ、東京・神奈川連絡会も脱原発かわさき市民と同じテントで、活動の紹介やチラシの配布を行いました。

リニア新幹線の市内工事については、市民にとっての情報量が少ないことや、工事自体が進んでいないため、強い関心が見られませんでした。チラシを見ながら質問をしてくる市民もいました。

また、統一地方選挙が間近に迫っているため、各党の予定候補者が会場を訪れました。会としてリニア工事の中止を求める活動を要請しました。

ストップ・リニア訴訟原告団が長野県大鹿村 や飯田市のリニア工事関連施設を視察

4月7日～8日の両日、ストップ・リニア！訴訟原告団は、長野県中川村で第24回訴訟事務局会議を開き、リニア工事が行われている大鹿村の非常口や残土置き場、豊丘村の山岳トンネル予定地、飯田市や中間駅予定地などを、現地のリニア団体の案内で視察しました。

残土置き場だらけの美しい村大鹿村



大鹿村青木のリニア残土

日本一美しい村・大鹿村は、「村民の理解が得られないうちは工事はしない」という約束を破棄して、JR東海が南アルプストンネルの長野側出口で工事用道路の建設や非常口工事をはじめ、村内各所に行き残土を積み上げています。美しい景観は損なわれ、残土の崩壊による道路や住民被害も心配です。

大鹿村の平坦な所になりふり構わず残土を置きまくるという状況になっています。小渋ダム上流では工事用残土が河川敷に積まれており、大水の時に流されるのではと感じました。

また、長野新駅ができるという飯田市上郷町では、立ち退きを求められている120戸のほとんどが反対し頑張っており、第二次訴訟の原告に参加している方もいます。ご自宅で説明を受け、JR東海の一方的な姿勢に地元の怒りが高まっていることがわかりました。

ここが問題！リニア新幹線 NEWS NO. 67
発行：リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会
天野捷一(中原・高津)090-3910-8173
山本太三雄(宮前) 090-8775-1879
矢沢美也(麻生・多摩)090-6108-6568